

技師生活総括

那須赤十字病院 山下 明

早いもので今の病院に入社して41年。定年なんてまだまだ先と思っていたが、あと少しでまだまだと思っていた定年になる。

思い返せば、学生の時、就職先を地元の福島の白河近辺にしようか、それとも次男の特権でどこか違う場所で働くか思案中の時、技師学校の先生から「栃木の大田原にある大田原赤十字病院が来年技師募集している」と教えていただいた。その先生と同級生がその病院で技師をやっているとのこと。これは先輩もいるし栃木は福島の隣だし、実家からも程よい距離感だなと思って「見学に行かせていただきます」と返事させていただいた。そのとき大田原にはどのように行けばよいのかわからなかったのも、市制を引いているということできっと同じ名前の鉄道の駅があるだろうと時刻表を探したが、見当たらない。そこで病院の先輩に連絡しどうやら最寄りの駅は隣町の西那須野駅でそこからバスで来てくれとのことだった。バスに乗って病院前についたとき、ちょうど新棟増築の終盤だったので5階建ての真新しい病院で仕事できると心が躍ったのを覚えている。

3月の下旬、入社前に来てくれといわれ、最初に行った業務はプレハブからの引っ越し業務だった。

当時は先輩の技師が6人、助手さんが2名、放射線事務さんが1名、放射線医が2名の少数の体制であった。親元を離れてのアパート暮らしだったため、先輩に入社早々大田原の繁華街である親不孝通りに連れて行っていただいた。そのようなアットホームな職場で、本当に安心したことを覚えている。技師が7人体制なのだが、一般撮影室が3部屋（歯科撮影室含む）断層撮影室、CT室、透視撮影室2部屋、血管撮影室1部屋、Co照射室1部屋、小線源治療室1部屋とどの様な形でこなしていたのだろう思うくらいの規模だった。その後部屋数に見合うだけの技師が集まり始め、大田原を名乗る最後には20人の規模となっていた。平成24年、念願だった新病院移転となり名称も那須赤十字病院となり、CT・MRI・IVRも2台体制・一般撮影もフルFPD化、PACSも刷新し放射線治療もリニアックとなり現在の技師数は28人までとなった。技師人生で放射線科の大きな引っ越しを2回させてもらうなかなか珍しい経験をさせてもらった。ありがたいことである。新病院の11年間のうち6年間を技師長として業務している。最初は前技師長の体制を踏襲しようと思ひ、大きな変革はせずに技師をまとめてみた。がやはり個人ごとにやり方は違うことがわかってきたため、徐々に変化させようと思っていた4年目の冬、今まで経験ないパンデミックが世界中を襲いその対応に追われる日々が続きまさか現在も同様なまま定年を迎えることになるとは思ってもみなかった。しかしその様な現状でも破綻することなく、業務をこなしてくれている部下に本当に頭が下がる思いである。ほんとにこのような自分に、ついてきてくれたことが技師人生で一番の宝物である。

まったくまとまりのない雑多な文章になってしまって申し訳ありません。

こんな私を支えていただいた那須赤十字病院放射線科のスタッフ、水沼部長をはじめとした放射線科医、又病院のスタッフ、又、日本赤十字社診療放射線技師会の歴代の執行委員に感謝をしつつ総括とさせていただきます。お世話になりました。ありがとうございます。